

第16回全日本ユース(U-16)水球選手権大会－桃太郎カップ－【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2023/12/26】

男子準決勝1
大垣市水球クラブ

11

4	—	2
1	—	1
4	—	3
2	—	0

 6 埼玉選抜

審判： PSO
御崎 智徳
塚本 龍一

この試合のプレー集計

大垣市水球クラブ	24	SH数	34	埼玉選抜
	3	速攻数	2	
	6	ST・SB	10	
	15	SH・P誘発アシスト	8	
	65%	GK阻止率	39%	
5	EX反則数	2		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

決勝進出を掛けた一戦で、スピード展開の埼玉とクレバーなディフェンスで相手を翻弄する大垣は、タイプがかなり異なるだけに、面白い展開となりそうだ。直線的に攻撃する埼玉を、大垣がどのようにかわしてくるか。特に埼玉は攻撃場面で必ずシュートを打ってくるので、そこを見越して大垣がどう反撃に出るのかで勝負の行方が見えてくるだろう。

【1P】

埼玉のオフェンス反則から大垣が攻め上がり、③中野の左サイドからの先制点でゲームが動き出した。直後の再開からの埼玉攻撃で、⑤菊池が決めて同点。大垣側にオフェンス反則があり、大垣GK①高橋が飛び出して無人となったゴールに④稲垣が放り込んで埼玉が1点リード。しかし中央トップ位置から大垣③中野が決めて同点。埼玉のオフェンス反則から大垣がカウンター攻撃。そこを⑤齋藤が決めて大垣1点リードすると、③中野が早くも3点目をゲット。埼玉も懸命に攻め、残り40秒で退水を奪ってシュート→コーナー→シュート→リバウンドと攻め続けたが、最後のシュートが外れて、40秒間の猛攻も実らず第1ピリオド終了(大垣4-2埼玉)。

【2P】

センターボールからの攻撃で右45°のレフティー⑩野村に埼玉側のマークがついておらず、そのまま伸びのあるシュートで大垣が5点目。埼玉もよく守って、よく泳いでゴール前まで迫るが、肝心のシュートが決まらない。長いラリーからの埼玉シュートを大垣GK①高橋がセーブし、そこから大垣が逆襲して退水を誘発。ラリーの影響を考えて、大垣ベンチはタイムアウト。しかしその攻撃は実らず、逆に埼玉側が退水誘発からタイムアウトで勝負に出た。そこでペナルティを誘発して1点を取り返すという展開。埼玉が苦勞して何とか取った1点。これがどうつながっていくか。大垣5-3埼玉で第2ピリオド終了。

【3P】

大垣がゴール前で粘ってパスを出してレフティー⑩野村が決めて6点目を取ったが、直後に埼玉も⑦茂呂が決めて再び2点差。埼玉はいつものようにシュートを多く打つがゴールポストやバーに当たる展開で、なかなか点差を詰められない状況が続いたが、何とか⑩池田がセンターSHを決めて1点差に迫る。しかし大垣もセンター③中野がダブルマークされながらも粘って決めて再び2点差に広げ、さらに③中野が連続得点で3点差にリードを広げた。大垣の攻撃がセット中心の安全策に出てきたことを察知して埼玉側のディフェンスも対応する必要がある。埼玉も再開攻撃でセンター⑤菊池で点差を詰めるが、ピリオド最後には埼玉の攻守が乱れ、大垣⑤齋藤が中央から押し込んで、大垣9-6埼玉で第3ピリオド終了。

【4P】

埼玉④稲垣のミドルレンジからシュートを大垣側がブロックし、そのまま埼玉ゴール前へ攻め、③中野が決めて4点差と安全圏に。懸命に攻撃する埼玉だが、シュートは相変わらずゴールポスト・クロスバーにばかり当たる展開が続く、ゴールネットに届かない。その間隙を縫って大垣②池田がダメ押し点。最終的に5点差で大垣が決勝進出を決めた(大垣11-6埼玉)。

埼玉の放ったシュートは大垣を大きく上回る34本だが、枠内シュートは少なく、多くがポストやバー。それだけ厳しいコースを狙っていることの現れであるが、重要なことはGKを動かすこと。そのためには、シューター以外のゴール前選手の動きの連動も高めていく必要がある。この世代の埼玉は今春のJOの石川戦でもシュートを多く打ってもほとんど点が入らず、石川にどんどん引き離された経験があるわけで、もう一つ柔軟性を身に着けるとスピード展開水球がさらに生きてくるものと思われる。

大垣は大会初戦の群馬戦で大きな自信をつかんだようで、一戦一戦、選手たちが落ち着いて冷静な判断が冴えてきている。決勝でもさらなる成長が期待できるだろう。